

第 19 号  
発行

小松同窓会本部

〒923-8646  
小松市丸内町二ノ丸15  
石川県立小松高等学校内  
同窓会報編集委員会  
TEL・FAX (0761)21-6330  
印刷 北嶺印刷株式会社

謹賀新年

平成十二年元旦



### 百周年を終えて

百周年特別事業委員長

徳田 八十吉

百周年記念事業、すべて無事終了いたしました。小松同窓会会長として、ご協力賜りました各委員長をはじめ、多くの皆様方に心から厚く御礼申し上げます。メイン事業でありました記念館の大改修も、展示収蔵庫の新設、階段教室の復元を筆頭に、装いも新たにスタートいたしました。母校のために寄贈された美術品・資料も百数十点にのぼり、それらの保存等も含めて、内部の再改修を始めております。

また、本年より、新校舎の建設が六年計画で始まります。今回寄贈された絵画や工芸品等も、内装の時点で考慮の上、校舎の各所に宝石のように配置展示される予定です。

百周年を機会に、在校生の情操教育、そして、小松高校在籍者としてふさわしい人間性の確立のために、お手持ちの美術品や資料を母校に寄贈賜りますよう、重ねてお願いし、皆様方のご健康を念じながら、ご報告と感謝の辯といたします。

(高校4回)

私達在校生はこの一年、野球部の甲子園出場、創立百周年記念事業をはじめ、楽しく、貴重な経験をすることができました。その中で、母校小松高校の歴史の

重みを改めて知りました。また、同窓生の方々のこれまでの御苦労の大きさと変わらぬ愛校心をも実感しました。

特に今年の場合、数々の記念事業を施して下さったことを大変うれしく思っています。そのすべてが素晴らしいものですが、中でも記念館の改修に対する在校生の反響は大きく、階段教室の利用に強い関心を持っています。また、突然の朗報、甲子園出場でも一緒に応援していただき、私達も力一杯の応援をすることができ、何より選手達に大きな勇気を与えてくれたと思います。

私達は在校生一人一人が人間性豊かに成長し、小松高校をさらに発展させていくことが、同窓生の方々の御厚意に應えることになると信じ、残された高校生活を有意義なものにしていきたいと思っております。これからも小松高校を暖かく見守って下さい。どうもありがとうございます。

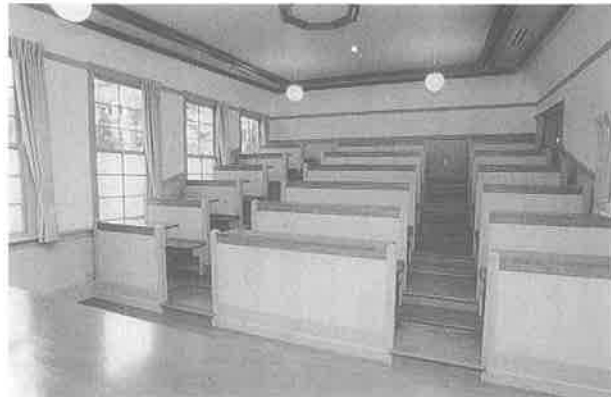
(在校生代表 藤村 勲)



記念館落成のテープカット



美術品収蔵庫



階段教室

## 創立百周年記念講演

## 「日本の心 茶の心」

裏千家十五代家元 鵬雲斎千宗室

一九九九、十、十日 於 こまつドーム

おはようございます。大変ですが、  
 美しい秋晴れの日に、名門小松高等  
 学校が創立百周年をお迎えになりま  
 して、心よりお祝い申し上げる次第  
 です。

もう一九九九年、これから二十一  
 世紀に踏み出してゆくと共に、みな  
 さんがこうして百年というめぐり合  
 わせに遭われたことは、何と幸せな  
 ことでしょうか。「今ここにこうし  
 ていさせていたでている」という  
 ことのありがたさを考えていただき  
 たいと思う。

昔、唐の時代に、龍牙和尚という  
 人がこういう素晴らしい文句を残し  
 ている。「木食草衣、心月に似る。  
 一生は無念また無涯。もし人、居い  
 づれの所にあるかと問はば、『青山  
 緑水、これ我が家。』」

今、エコロジーということが言わ  
 れています。一木一草、日本に古く  
 から伝わる私たちの遺産というもの  
 を十分に大事にし、またこれから五

百年、千  
 年後に遺  
 産になる  
 ようなも  
 のを、私  
 たちの手  
 で作り残  
 して行か  
 なければ  
 ならない。

そのために一番大事なことは、まず  
 環境だと思う。

たった一碗のお茶ですが、その中  
 に入っているお茶の色は何ですか。  
 緑ですよ。これはあの小さなお茶碗  
 の中に自然が込められているという  
 ことです。お茶碗を手にとって、中  
 の緑の色と自分が一体になることで、  
 自分はその自然を大切にいただくこ  
 とができるんだという気持ちになっ  
 たならば、一碗のお茶もみなさん方  
 の心の潤い、安らぎにつながって行  
 くわけです。

昭和十八年、大学二年生の時、私  
 は徴兵検査を受け、そして学生服の  
 まま海軍へ参りまして、飛行機乗り  
 になりました。特攻隊です。私は生  
 き残って帰ってきた一人ですが、多  
 くの仲間を失いました。

昭和二十年の五月二日、徳島の海  
 軍基地で、もういよいよ二、三日の  
 うちに出動するという時でした。飛  
 行機の傍らで車座になった仲間七、

八人が、みんな私の点てたお茶をお  
 いしく飲んでくれた。その中の一人  
 が、「千よ、生きて帰ってきたら、  
 お前の茶室でお茶を飲ませてくれる  
 か。」そう言ったときに、私ドキッ  
 とした。生きて帰ることはできない  
 んです、一遍出たら。死と対決した  
 最後の場面で、「お母さん」と呼び  
 続けたその戦友たちは、みんな沖繩  
 の海に突っ込んでいきました。帰っ  
 てきませんでした。

私どもは、そういう経験を積んで  
 おります。だから平和の大切さを知っ  
 ている。私の大好きな言葉は、「マ  
 ンカインド イズ ワン」世界人類  
 は一つである。平等である。言葉も  
 違う、風俗も違う、慣習も違う、だ  
 けれども人間なんです。その人間が  
 一つになるということこそ、平和の  
 根源ではなかるうかと思う。

私は韓国でこの間、日韓文化交流



会議に出席いたしました。韓国も日  
 本も、若い人は同じように見える。  
 でもね、韓国の方が若い人たちに緊  
 張感がある。目の輝きが違う。日本  
 人にそれがありませんか。誰もない。  
 もうだらっとして、気が抜けている。

このままでは日本人はだめになっ  
 てしまう。日本人はもっともっと、  
 人を思い、人の言うことを聞く耳を  
 持っていましたよ。そして辛抱強く  
 て、ものに対してありがたいという  
 気持ちを持っていた。

私は過去この四十年間に、世界各  
 国大体六十か国、一碗のお茶を持っ  
 て回って参りました。最近ではその  
 一碗のお茶を、外国のあらゆる国の  
 人たちがお互いに勧め合って飲んで  
 います。「いかがですか」「お先に」  
 「いただきます」。勧め合う心、そ  
 してそれを素直にいただく心がある  
 んです。

私が生きている間に言い尽くした  
 いことは、たった一碗のお茶ですけ  
 れども、言葉も、慣習も、風俗の違  
 いもない、みんなが裸になって心か  
 ら勧め合うということなんです。

お茶というものは、世界人類が一  
 体化するための、一つの日本の伝統  
 的な心であると思っていたきたい。  
 ああいう点前、手続きだけを見て難  
 しいとお思になる方は、それなら  
 スポーツだって同じですよ。みんな  
 ルールがあるんです。

難しいと言って真ん中抜いてやっ  
たって、点前がなければおいしいお  
茶を相手に差し上げることができな  
い。手続き、ルールというものがあ  
る以上、大切に守らなきゃ。そして  
そのルールを自分のものにするとい  
うこと、そしたら面倒くさいことな  
いんですよ、何も。自分のものにし  
て初めて、そのルールが生かされて  
くる。

この日本の、美しい、伝統あるあ  
り方というものを、私たちの先祖が  
一つ一つルールに従って守り育てて  
来てくれたわけです。日本に生まれ  
た以上、私たちは、そうした先祖の  
残したものを正しく理解して、同時  
に次の世代に手渡していくことが大  
事だと思う。

この、百年をお迎えになった小松  
高校のみなさん方、今いるあなた方  
が、次の世代にこの小松高校の校風  
の良さというものを、手続き・ルー  
ルをきちっと守られてバトンタッチ  
していけることが非常に大事だと  
思うんです。

そして、あなた方 一人一人が、  
「マンカインド イズ ワン」「一  
碗からピースフルネス」の世界を打  
ち立てられるかどうかということ、  
どうか一つ真剣に考えていただきたい。  
そうすることによって、きっち  
と背筋に一本入った、将来を背負う  
日本人となることができるのじゃな

いかと、私は思う次第であります。  
最後に、小松高校の益々の発展を  
お祈り申し上げまして、私の話を終  
わりたいと思います。御静聴ありが  
とうございました。

◇ 記念講演会

夢や勇気を与えられるような人、  
百周年にふさわしい人、誰でも是非  
聴いてみたくなるような人、このよ  
うな思いでお招きした千宗室宗匠の  
ご講演は如何でしたでしょうか。

お茶を通して世界六十有余の国々  
と交流を深めてこられた先生の、自  
然と人間との大切な関わりや人類の  
恒久平和を願う日本人の心を論じら  
れたそのお話には、誰しもが感銘を  
覚えられたことと拝察しております。  
小松市長西村徹様を始め関係各位  
のご尽力に心から感謝申し上げます。  
(講演委員長 中出和子)

◇ 皆様の暖かいご芳志で

— 募金委員会 —

徳田会長をはじめ小松同窓生約一  
万一六五〇名の方々から、約二億一  
千万円のご寄付を賜り、心より厚く  
御礼と感謝を申し上げます。

お陰をもちまして「記念館の大修  
修」の特別事業をはじめ、一連の各  
委員会の事業を全て縮小することな

く当初の計画通り十二分に実行する  
ことができました。

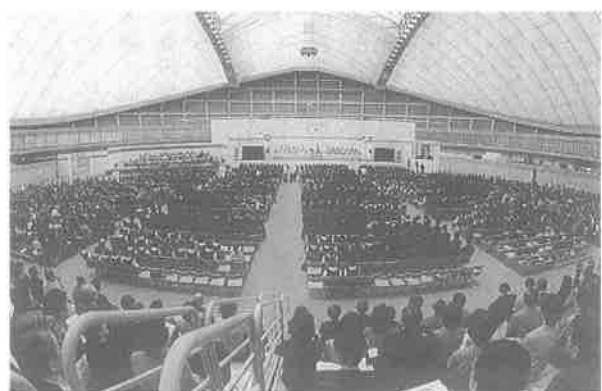
その任でない私が、皆様のご協力  
を得て募金委員長として創立百周年  
に携わらせていただき、また、多く  
の同窓生と共に百周年を祝うことが  
できまして感謝いたしております。

後輩の方々には小松高校の百年の  
伝統と誇りを刻んだ記念館をこれか  
らも大切に、大いに活用していただ  
き、先輩の遺した精神と共に末永く  
伝えていってくださることを願ってお  
ります。  
(募金委員長 堀口外茂雄)

◇ 裏方の感激

十月十日、好天。委員の集合は朝  
八時。まず受付を玄関外側に設営。  
応援のPTAや同窓会員も、次々と  
かけつけてくれる。やがて来賓、教  
職員、生徒、同窓会員と、続々来場。  
記名していただいた芳名録は、貴重  
な記録として大切に保存されること  
になる。

広いドームも、同窓生千六百席を  
含む約三千席が埋まり、百周年にふ  
さわしい式典会場となった。  
定刻十一時半、祝典序曲が流れ、  
詠、宮崎尚教頭の司会で、厳粛に進  
行。知事をはじめ、登壇者各位のご  
協力を得て、ピットシー時間で終了  
した。裏方進行係の橋村・東出両先



生と笑顔で握手する。時間が限られ  
切りつめた日程であったため、各方  
面への無礼もやと気になったが、参  
加者より思い出に残る式典だったと  
の感想を聞き一安堵。皆様のお力添  
えの賜物との喜びと、裏方としての  
満足感が身にしみた一日であった。  
(式典委員長 清水恒次)

◇ 百周年記念名簿編集後記

小松同窓会創立以来六回目となる  
『百周年記念版会員名簿』が出来上  
がり、八千名の会員に発送いたしま  
した。

表紙の題字は、人間国宝徳田八十  
吉同窓会長の揮毫によるもので、百

周年記念にふさわしい装丁になりました。

編集にあたっては、コンピュータ処理で、より正確な名簿をめざして、三年間にわたり各期名簿委員を中心に会員動向調査を精力的に実施してまいりました。今回は百周年という特別な思いの中で、それぞれの土地で、さまざまな分野で活躍する同窓生の皆様から寄せられた「母校小松高校」に対する熱い心、強力な声援が記念事業の大きな支えとなり、名簿編集にあたる私達にとっても大きな励みとなりました。

最終的に、二九、二〇六名の会員のうち、七、〇〇〇余名の入力訂正を行いました。なお編集校正に最大の努力を致しましたが絶対にあつてはならない入力間違いや誤字が見つかりましたことを、心から深くお詫び申し上げます。

なお、最近では会員の異動が大変多く、平成十一年五月三十一日最終締切り以降に住所や記載事項の変更があった会員については、先の名簿訂正にあわせ、平成十一年十二月三十一日現在で会員異動名簿を発刊いたしました。

最後になりましたが、今回の名簿作成にあたりいろいろとご支援ご協力いただきました関係各位にお礼申し上げます。

(名簿委員長 西 紀幸)

### ◇ 母校の歴史を忠実に再現

小松高校では平成六年、百年史刊行に向け、県内外の関係校に教員を派遣。同九年には編集委員会を組織し、同窓会員や学校教職員ら一七人が委員を務め、約五年かけて編集にあたった。

「通史編・資料編」(学校側委員担当)は校内に所蔵されている資料の記事から小松高、県内の教育事情に関するものを抜粋、各種データも豊富に掲載し、各時代の学校の様相がわかるようにした。

「回想編」(同窓会側委員担当)では、同窓会員に広く材料提供や執筆を依頼し、それぞれの時代の青春群像の再現に努めた。

B5版、総頁数は千三百二十九ページ。ケースには、徳田八十吉会長の作品の一部を写し、表紙はスクールカラーの緑をあしらった。題字も会



長の手によるものである。

(百年史委員長 井口哲郎)

### ◇ 音楽祭委員会報告

十月九日の「小掠佳 歌談の会」と、十月十日、記念式典に先立って本校吹奏楽部によって演奏された、山本直純氏作曲の祝典序曲「世紀の祭典」の作曲依頼との二つの事業に取り組みました。

歌談の会の方は、会員の皆様のご努力のおかげで満席となり、内容も素晴らしく、また委員、同窓生及びPTAの方々のおかげでスムーズに運営でき、本当にありがとうございました。参加された方々からは好評をいただき、音楽祭委員一同喜んでいきます。

祝典序曲の方も、親しみやすい日本の旋律、校歌にも歌われている「白山」の賛、白峰村の民謡と、さらに現代風のアップテンポの部分とを持った素晴らしい曲で、その楽譜と、吹奏楽部が演奏したCDが残っています。このCDは式典参加者全員に配布されました。このような祝典序曲は全国的にも高校で持っている例はないそうで、本校のプラスチック部が機会ある毎に演奏してくれらるものと思っています。

(音楽祭委員長 勝木育夫)

### 祝典序曲を演奏して



小松高校創立百周年ということで、祝典序曲、「世紀の祭典」が作られた。作曲者は山本直純氏。そんな有名な方の曲をもらい、私達吹奏楽部一同は、この作曲者の意図やイメージに沿って演奏ができるように努力した。CDのレコーディングの際、実際に山本氏に指導を受けたとき、「高校生のみなさんに上手に演奏してもらえてうれしい」というようなことを言われ、感慨無量だった。レコーディングや記念式典など精一杯演奏することができた。

創立百周年という、普段めつたに立ち会うことのできない大きな行事に参加することができ、とても良かった。いい経験となった。これからの高校生活に役立てていけるよう頑張っていきたい。

(吹奏楽部二年 西田美月)

僕たち吹奏楽部は百周年の記念式典で小松高校祝典序曲を演奏したが、それまでには多くの苦勞がありました。

まず練習時間の確保のことです。ちょうど体育祭の時期と重なり、部員がそろわず、効率的な練習があまりうまくできませんでした。

また演奏の場所がこまつドームということで音響面でも苦勞しました。いろいろな苦勞があつて大変だったけれど、今考え直してみると素晴らしい経験をしたんだということに気づきました。この経験は百周年に吹奏楽部にいる人間にしかできない



ことです。

僕は百周年という節目に小松高校の吹奏楽部にいることができて良かったと思います。

(吹奏楽部二年 北市幸佑)

自分がこの小松高校の百周年という記念すべき年の在校生として、その祝典序曲を演奏できたことはとてもうれしいことだと思えます。

祝典序曲の話を以前に聞いたときは、自分たちの演奏が残るといふことなのでとても楽しみでした。しかし、譜面をもらってから録音までの練習できる日数が少なく、予想以上に大変でした。夏の暑い日だったので気持ちもだらけてきたり、つらい思いをしたこともしばしばありました。

でも実際のレコーディングや記念式典での演奏では、これらの苦勞をはるかに上回る感動を得ることができ、高校生活だけでなく、一生の記念に残る思い出となりました。

(吹奏楽部二年 西村麻美)

#### ◇美術展をおえて

平成十一年十月八日は私にとりましては忘れられない感激の日でありました。小松高校百周年記念美術展が数々の苦勞を経て漸くオープンを迎えたのです。テープカットの缺を

入れる瞬間、ともに労苦を分かち合った委員の方達の面影が脳裏をかすめました。作品出品の依頼からはじまり、作品の納入受付、図録作成用の写真撮影、展示場までの運搬、展示等々に汗を流し労を尽くされた方々です。苦勞の甲斐が実り、非常にバラエティーに富んだ六部門八十七点に及ぶ色彩豊かな美術展となりました。

一週間の開催期間中には、二千名を超える来場者があり、多くの方々に鑑賞していただきました誠にありがとうございました。また図録も購入していただきあわせて御礼申し上げます。

末尾になりましたが、作品出品にご協力いただきました八十七名の方々に心から感謝申し上げます。そのうえ五十点もの作品を寄贈していただきましたして重ね重ねの「芳志のほどに、厚く御礼申し上げます。これらの作品が新校舎に陳列され、二十一世紀を担う生徒の情操教育向上等に有意義に寄与されることを念願しております。

(美術展委員長 宮西すゞ子)

#### ◇百歳を祝して

母校の創立百周年記念資料展が滞りなく盛会のうちに終えましたこと、紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。



げます。

当初から百年の時の移ろいや、三万余の同窓生の母校に寄せる思いをいかにして展示すべきかを、委員会メンバーの皆様方と大変長い時間をかけて検討しました。紆余曲折の末、校種別、時代区分を紹介、同窓生すべてが共通して胸に刻んでいる「青春普遍の姿」を「部活動」「学習」「学校行事」「母校への憧憬」の四つの切り口で展示し、テーマを「百歳になりました」としました。資料の整理、展示の準備などで委員会のメンバーは最後の数日間徹夜に近い日々を過ごしました。

◇茶会委員会から

オープニングセレモニーの後、予想を超える多数の同窓生が入場される姿を見たり、それぞれの資料の前で想い出を語っていただき、委員会メンバー一同感慨無量でした。これからも、貴重な資料を提供いただいた同窓生の皆様、そして学校関係をはじめ多数の方々のお陰と感謝しております。

(資料展委員長 江口介一)



した。秒読みのスケジュールの中で部員全員と握手して今後を激励されたり、記念写真に快くおさまっていただきました。また百周年のお祝いとして

「慶雲生五彩」

の色紙を頂戴できたことは望外の喜びでした。

翌十一日は芦城公園内の仙叟屋敷での祝賀茶会が、和やかに楽しく盛大に行われました。

会記の一部を紹介しますと、

待合床 中谷宇吉郎(中学15回)画賛

海の幸山の幸ひとさわに

日の本の国は豊かなり

脇床

万歳染置物 初代八十吉

茶杓

円能斎共筒 銘友語り

茶碗

鵬雲斎手造り黒 銘日月長  
(茶会委員長 蓮井正亮)



式典当日や翌日の茶会で大活躍した本校茶道部の生徒からも次のような感想が寄せられています。

部活動に生かし、稽古をつんでいきたいと思えます。

茶道部二年 松田 葵

階段教室で特別講義

百周年記念行事の一つとして階段教室のお披露目でもある「特別講義」が、昨年十月九日に行われました。講師としてお招きしたのは、かつて名講義で小松高生を魅了した墨田迪彰先生(中学41回)と吉田三郎先生(中学42回)でした。当日の階段教室はまさに立錫の余地もないほどの超満員状態で、老若男女、また現役の小松高校生も多数集まり、両先生の講義に耳を傾け、二時間余りがまたたく間に過ぎました。両先生の講義題目は次の通り。

墨田迪彰先生

「小松の水環境を考える」

吉田三郎先生

「壮絶の別れ……芭蕉と北枝と」

県立記念碑除幕式

同じく百周年行事として県立小松高等女学校の記念碑の除幕式が、市役所前の白楊幼稚園横で十月八日十時に行われました。ここにも多数の同窓生が集い、かつての校舎の姿に思いをはせました。

昨年度は同窓会館で高文連文化祭の茶会を催しましたが、今年度は創立百周年行事の一環として、立派な仙叟屋敷で、同窓生の方の前でお点前をすることができました。二つの茶会を体験して、人をもてなす喜びを身をもって感じました。最初は不安や緊張もありましたが、部員の協力と、先生方の支えによって、無事に終えることができました。

この経験を大切に、これからの



墨田迪彰先生



吉田三郎先生

**満員御礼**

祝宴にご参加頂きました約一四〇〇名の方々・・・有難うございました  
 入場券の販売にご協力頂きました常任理事の方々・・・有難うございました  
 ご支援を頂きました大変多くの方々・・・有難うございました  
 祝宴委員長 上出雅彦  
 同委員会 スタッフ一同



県女記念碑除幕式



事業名称 石川県立小松高等学校創立百周年記念ゴルフコンペ  
 日時 平成11年10月11日(祭) 6時30分スタート  
 天候 快晴  
 場所 片山津ゴルフ倶楽部 白山コース 日本海コース  
 参加人数 小松同窓会会員 444名(115組)  
 競技結果  
 第一部 優勝 江戸 真夫氏(高20回)  
 OUT 40、IN 38、HC. 7.2、NET 70.8  
 第二位 田嶋 隆司氏(高24回)  
 第三位 近江 修三氏(高18回)  
 ベストグロス 日本海コース：米口 究氏(高23回)  
 白山コース：江戸 真夫氏(高20回)  
 第二部 優勝 石村 勉氏(高12回)  
 OUT 42、IN 38、HC. 9.6、NET 70.4  
 第二位 藤岡 秀一氏(高1回)  
 第三位 井村 元氏(高9回)  
 ベストグロス 日本海コース：南 雅雄氏(高14回)  
 白山コース：北出 次隆氏(高11回)  
 総合優勝 石村 勉氏(高12回)  
 総合百位 浅田 徹氏(高17回)  
 チャリティ募金額 ¥365,000 小松市福祉課へ寄付  
 (チャリティホール：日本海コース9番、白山コース16番)



創立百周年記念小松同窓会実行委員会決算書

収入の部 単位：円

Table with 3 columns: 科目, 決算額, 摘要. Rows include 寄附金, 基金繰入額, 雑収入, 計.

支出の部

Table with 3 columns: 科目, 決算額, 摘要. Rows include 特別事業委員会, 募金委員会, 名簿委員会, 百年史委員会, 式典委員会, 音楽祭委員会, 講演会委員会, 祝宴委員会, 美術展委員会, 資料展委員会, ゴルフ委員会, 茶会委員会, 特別講義事業, 県女記念碑事業, 事務局費, 計.

特別事業委員会関係支出内訳書

Table with 3 columns: 科目, 決算額, 摘要. Rows include 事業費, 印刷費, 郵送費, 事務雑費, 計.

収入総額 231,495,117円 - 支出総額 223,206,282円 = 残額 8,288,835円

平成11年11月29日 会計監査
平成11年12月2日 常任理事会で承認 残金は特別会計へ繰り入れ

甲子園出場記念後援会決算書

収入の部 単位：円

Table with 3 columns: 科目, 決算額. Rows include 寄附金, (同窓会関係), (PTA関係), (OB会関係), (一般寄附金), 市町村等助成金, 応援バス参加費その他, 収入合計.

支出の部

Table with 3 columns: 科目, 決算額. Rows include 選手派遣費, 応援費, 事務費, 雑費, 支出合計.

収入 99,817,632円

支出 46,017,632円

残金 53,800,000円

余剰金(残金)の用途について

Table with 2 columns: 用途, 金額. Rows include 1.部活動生徒送迎バス購入費, 2.応援基金, 3.部活動設備充実基金, 4.記念品購入費, 5.小松同窓会基金, 計.

平成11年9月30日 後援会役員会で承認

本部だより

▼明けておめでとうございませう。
昨年中は小松同窓会創立百周年記念事業へのご協力ありがとうございました。
▼さて、前号と本号は百周年特集として、一万一千名の会員へ直接郵送することとし、その郵送料を百周年の募金でまかなわせていただきます。おかげをもちまして多数の会員から好評をいただきました。
▼しかし、次号からは財政的問題から同様の形でお届けすることが困難な状況です。つきましては今後五年分の郵送料一〇〇〇円を御負担いただくことで、会員各位の購読要求にお応えしていきたいと思っております。
▼購読ご希望の方は同封の振込用紙で、今年五月末までにお支払い下さい。多数の方の申し込みを編集委員一同お待ちしております。

第20号の原稿募集

◎切 平成12年5月30日

◎内容 自由(在学中の思い出、近況報告、俳句、短歌等六百字程度で)

◎送先 〒九二二一八六四六

小松市丸内町二の丸一五
小松高校同窓会事務局宛

◎発行 平成12年7月